

要旨

1. 目的

本研究では、助産師がキャリア・アンカーを形成するプロセスを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

本研究は、助産師に対する半構成的インタビューから、キャリア・アンカーを形成するプロセスを記述する質的記述的研究である。研究協力者は、病院、助産所、または助産師養成機関に勤める経験年数 15 年以上の助産師 4 名とした。

3. 結果

W 氏からは、①看護学生～第 1 子出産: 自律した助産師への憧れ、②クリニック勤務: 開業するには同職・他職との連携が不可欠と気づく、③第 3 子出産: 出産体験から開業を考える、④開業以降: 職能団体での多職との関わりから出産環境を整える必要を感じる、というプロセスが語られた。X 氏からは、①看護師～助産学生: 自然分娩を支える助産ケアに憧れる、②助産師 4・5 年目: 子宮内胎児死亡を契機に新生児集中治療室での修業を決意、③休養～元職場への再就職: アルバイト経験から母児に寄り添うケアに携わりたいと感じる、④再就職以降: 新生児集中治療室での勤務を振り返り、ケアの質を保障するため職場環境を整える役割を見出す、というプロセスが語られた。Y 氏からは、①助産学生～第 1 子出産: 人間味のない分娩介助への違和感から満足できるお産の場を求める、②子育て兼パート: 産みたいと思えない場所で働く葛藤、③総合病院へ転職: 自身の出産体験とリンクしたプロジェクト推進で創造性豊かに働く、④管理職～退職まで: 立場の変化から仕事が楽しくなくなり職場を離れることの決意、⑤退職後～開業まで: 孫の取り上げや開業を見据え助産所で研修、というプロセスが語られた。Z 氏からは、①高いモチベーションで働く: 良いケアを追及する職場で充実して働く、②外部を知る: 勉強会への参加から、良いケアを追及する人達ばかりではないと気づく、③シビアな事例が続く: 誰かに責任を負わせようとする雰囲気から勤務継続が辛くなる、④助産師養成機関の教員以降: 成長を感じる生徒と出会い、教員の魅力に気づく、というプロセスが語られた。

4. 結論

助産師は、キャリアの転機において多様な人と関わりを持ちながら前向きなアクションを起こすことで、キャリア・アンカーを形成していた。また、助産学生時代の体験から得た思いは、キャリアを縦断し、キャリア・アンカーの形成に影響を与えていた。そして、自身の出産体験は助産師のキャリア・アンカー形成に関連していた。助産師のキャリア・アンカー形成には、キャリアを継続することが重要と考えられた。